

第 56 回秋期研究大会

発表申込者各位

日本数学教育学会論究部長 中村 光一
第 56 回秋期研究大会実行委員長 熊倉 啓之

『口頭発表』及び『ポスター発表』執筆要領

- 「口頭発表」及び「ポスター発表」として発表される論文は、『秋期研究大会発表集録』に掲載されます。
- 原稿締切り 2023 年 9 月 22 日（金）※締切りの日時を過ぎた原稿は受け付けできませんので、ご注意下さい。
 - ※オンライン投稿で、著者名・所属入りの WORD ファイルと著者名・所属無しの PDF ファイルを提出して頂きます。詳細は下記に従ってください。
- ページ数 「口頭発表」 …… A4 で 4 頁
（「論文発表」に投稿し、審査の結果「口頭発表 4 ページ変更（発 4）」に変更となった場合も、A4 で 4 頁）
「ポスター発表」 …… A4 で 1 頁
- 投稿資格について
 - ・ 投稿原稿の著者（連名の場合は筆頭著者）は、日本数学教育学会の個人会員とする。
 - ・ 筆頭著者としての発表は、論究部会の決定により、論文発表、口頭発表、ポスター発表を通して 1 件のみとする。
- 審査について
「口頭発表（発 4）」及び「ポスター発表」に投稿された原稿は、論究部が審査する。

I 執筆要領

1. **原稿の書式** 必ずホームページ掲載のテンプレートをダウンロードして使用すること。 原稿は A4 判の縦置き横書きとし、22 字（字送り 10.35p）42 行（字送り 16.8p）の 2 段組で作成する。別紙の口頭発表様式またはポスター発表様式、「論文執筆における引用の仕方、及び引用・参考文献の記載形式」、サンプル様式を参照して執筆する。
本文のフォントは、MS 明朝体 10.5 ポイント、見出しは MS ゴシック体 10.5 ポイントとする。句読点は「、」と「。」を用いる。英字については Times New Roman を使う。余白の長さは、上 30mm、下 18mm、左右 20mm とする。書式を逸脱した原稿は掲載できなくなるので、注意すること。
2. **標題の字数と書式** 標題は 40 字以内とする。副題がある場合、副題は 30 字以内とする。また、標題は MS ゴシック体 18 ポイント、副題は 14 ポイントとする。
3. **文体** 日本語の文体は「である」調とし、常用漢字並びに現代かなづかいを用いること。

4. **見出し番号の付け方** 章、節、項、等は番号と標題をつけ、系統立てて配列する。見出しの番号は、次の順とする。
章の見出し番号 1, 2, ..., 節の見出し番号(1), (2), ..., 項の見出し番号①, ②, ...
5. **表・図の番号** 表・図の番号は、それぞれ、表 1, 表 2, ..., 図 1, 図 2, ...のように通し番号をつけ、表や図の標題とともに入れる。表の通し番号と標題は表の上側に、図の通し番号と標題は図の下側に書くものとする。
6. **引用の仕方、図表の転載、及び引用・参考文献の記載形式** 次の URL に定める「論文執筆における引用の仕方、図表の転載、及び引用・参考文献の記載形式」をよく確認し、それに従う。引用・参考文献のフォントを小さくしたり行間を詰めたりすることは認められない。
https://www.sme.or.jp/wp-content/uploads/2023/01/jsme_reference_style_20230117.pdf
7. **表・図等の扱い** 冊子体（別注）作成において、86%に縮小するので、縮小した後でも十分読める大きさを確保する。また、論文データをつなげて発表集録を作成する際、書式が崩れる可能性があるため、フォントサイズ等、変更しないで下さい。表・図が 2 段組の一方の段に収まらない場合は、2 段分使用すること。
8. **付記、謝辞及び注の記載の仕方** 付記、謝辞、注がある場合には、付記、謝辞、注、引用・参考文献の順にする。科研などの助成金への謝辞は、「謝辞」ではなく「付記」として掲載すること。実質的な謝辞がある場合には「付記」とは別立てとして「謝辞」を設けること。「注」の形式は特に問わないが、注の対応関係が分かるように記載すること。また、フォントを小さくしたり行間を詰めたりすることは認められない。
9. **英文での原稿執筆** 以下の 3 点に留意の上、執筆する。
 - ① 日本語バージョンの執筆要領を原則とする。なお、本文の基本フォントは Times New Roman の 10.5 ポイントとする。
 - ② 2 段組は行わず、執筆する。なお、余白等は日本語バージョンに従う。また、1 頁の行数は日本語バージョンと同様に 42 行とする。
 - ③ 要約は、日本語バージョンに従って、その部分を日本語で作成する。
10. **ページ番号** 原稿にはページ番号を付さないこと。

※ 書式の改変は一切認められない。上記 1～10 の要領に従っていない場合は、その時点で「不採択」と判定される場合があるので注意すること。

II 提出方法

1. 提出方法

口頭発表またはポスター発表のテンプレートを利用して「著者名・所属入りの WORD ファイル」「著者名・所属入りの PDF ファイル」「著者名・所属無しの PDF ファイル」を各 1 つ、合計 3 つのファイルを作成し、大会 Web ページよりオンライン投稿により提出する。

2. 論文原稿ファイル名

ファイル名は以下の通りとする。

<口頭発表の場合>

著者名・所属入りの WORD ファイル：O_名前.doc (または docx) (例：O_数学太郎.docx)

著者名・所属入りの PDF ファイル：O_名前 (有) .pdf (例：O_数学太郎 (有) .pdf)

著者名・所属無しの PDF ファイル：O_名前 (無) .pdf (例：O_数学太郎 (無) .pdf)

<ポスター発表の場合>

著者名・所属入りの WORD ファイル：P_名前.doc (または docx) (例：P_数学太郎.docx)

著者名・所属入りの PDF ファイル：P_名前 (有) .pdf (例：P_数学太郎 (有) .pdf)

著者名・所属無しの PDF ファイル：P_名前 (無) .pdf (例：P_数学太郎 (無) .pdf)

※ 分科会の希望については、既に発表申込み時にお願いしていますが、変更がある場合は、投稿時に希望分科会を入力して下さい。

<分科会>

1. 数学教育学論, 研究方法論
2. 教育課程 (目標, 評価)
3. 問題解決 (数学的な考え方, 指導法)
4. 教授・学習過程
5. 数学的モデル化
6. 数と計算・代数
7. 図形・幾何, 測定
8. 関数
9. 確率・統計
10. 言語とコミュニケーション
11. 証明 (説明, 論証を含む)
12. テクノロジー
13. 数学教育史, 数学史の教育活用
14. 教師教育
15. 国際協力
16. その他

3. **問合せ先** Eメールによる問合せは、次の事務局宛にお願いします。

日本数学教育学会第 56 回秋期研究大会実行委員会事務局宛
jsmeautumn56@sme.or.jp